　**ニュースレター　２０２２年10月号**

**１　ご挨拶**

　朝夕はメッキリ秋の気配を感じる季節となって参りました。皆様　如何お過ごしでしょうか？

コロナもようやく沈静化を見せつつありますが、油断は大敵ですね。

又マーケットの方も、米の３回目の大幅な利上げや、その金利差による円安によって、大きく値を下げております。このような状況下、不安を感じておられる方も多いかと思いますので、今月号はそこに焦点をあてています。

**２　景気後退と景気サイクル**

　私が尊敬し信頼する上地ゼミ講師、上地明憲氏の本日配信の資料を元に展開します。

　マーケットは、景気後退を織り込み年初来　約２５％下落致しました。

景気のサイクルは、谷から谷の一サイクルを指します。拡大期から後退期への転換原因は、過剰生産で在庫の積み上がり等です。（資料①）

　では景気の拡大期や後退期は、どれ位の月数で循環するのか？（資料②）

日本では、拡大期が３年程で後退期が1.3年が過去約70年間の平均です。

米では、5.3年と0.9年となっております。景気後退期間は、1-2年　長くて３年とありますから、既に9か月が経過しましたから、後１年程度ではないでしょうか？

　資料③にありますように、「景気後退なくして成長なし」です。更には

景気後退を糧に（バネにして）成長します。過去70年間の日本の実績。

76年間の米の実績をご覧下さい。黄色が拡大期で、グレイが後退期です。

　米のこの表だけ見ますと、最近１０年間程　急上昇しており正にバブルではないか？と思われる方も多いかと思いますが、次の４ページ御覧下さい。

上の表は、単純に76年間を金額表示で表現したものです。1000円　2000円の過去と現在の30000円では、同じ１０％で　100円　200円から　3000円とメモリーピッチは大きく違います。

裏面へ

　それを同じ指数（対数表示）で表現たのが、下のグラフです。

下のグラフを見ますと、ここ10年程が1000円　2000円時代と左程変わらないのがお解り頂けると思います。

**3　まとめ**

景気後退なくして景気拡大はないという事。1973年のオイルショック、1986年の円高不況には、省エネ技術や、海外現地生産で回復に向かいました。

２年後　３年後が楽しみです。

景気後退の期間は、今後　１年程度だろうとの事。

長期投資家（１０年　２０年のスパンで捉える）にとって、景気後退期は種まきの時期である。

ここで仕込んだ人は、大きな花を咲かせるし、　何もしなかった人は収穫を期待出来ない。

そのベストな方法が、毎月の積立投資です（ドルコスト平均法を活用）

以上を踏まえて、今後の運用について対処される事をお勧めいたします。

**それをサポートして「世界の株式市場が生成する年率7.5％のリターン（収益率）をお客様にお届けする」が当社のポリシーです。**

　２０２２年10月3日　代表：岩本　悟